玉川上水・野の花だより　No.４６

ミゾソバ　*Persicaria thunbergii*

東京大学名誉教授　　中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川　幹子

2026 年　10 月 20 日



今日は、いつになく玉川上水の水量が多く、水の流れにも勢いのある日でした。流れの中に楚々として咲いているのが、ミゾソバです。全国の水田や湿地に見られる一年草で、日本名は溝（ミゾ）に咲く、蕎麦に似た花に由来すると言われています。

花の先端が薄紅色で下部が白色、10 個ほどの小さな花が、集まって咲きます。つぼみの時は先端がとがっていて、コンペイトウに似ているためコンペイトウ草ともいわれています。

学名の *Persicaria* は、桃のようなという意味で、*thunbergii* は、名前をつけたのが、スウェーデンの植物学者で、「日本植物誌」をはじめて著わしたツュンベリー（1778～1849）であることを示しています。ツュンベリーは、小さな花の色合いが桃に似ていると思い命名したのでしょう。通常、ミゾソバは大きな群落をつくります。2030 年の半ばには、この最下流の玉川上水にも水が戻ってきます。小さな命が引き継がれ、薄紅色に揺れるミゾソバの水辺が誕生することも夢ではないかもしれません。



ミゾソバ　　2026 年 10 月 20 日撮影　第三号橋～笹塚橋